

軽量、快適車いす

岡山県内
8社など 技術生かし試作

あすから
東京で展示

岡山県内に拠点を置込む。

試作品は、フレーム
幅56センチ、高さ70センチ、奥
行き80センチ。

術を生かした。
同展は15カ国・地域
の522社・団体が参
加し、最新の介護福祉
機器を紹介。試作品は
9日までの期間中、福
祉機器開発の産学官連
携組織「ハートフルビ
ジネスおかやま」のブ
次の通り。
石川工業、橋本義肢製
作（以上岡山市）倉敷レ
イザー（倉敷市）STU
（総社市）nap（吉備
中央町）
（伊東圭一）

く金属加工や機械設計 など8社と大学教員が協力し、新型の車いすを試作した。重さは市販品の半分程度とし、振動を和らげる機能で乗り心地も向上させたという。実用化は想定していないが、7日からは東京で開かれる国際福祉機器展に出品して盛り込んだ技術売り込みを。試作品は、フレームに比重が軽いマグネシウム製のパイプを使用。重さ6・9キロ、鉄やアルミニウム製パイプが主流の市販品「振動で腰が痛い」といった利用者の声を基に、川崎医療福祉大の隅垣内彰非常勤講師がデザインし、興南設計（倉敷市）が設計した。

製造は、興和製作所



岡山工場（岡山市）がサスペンションなどの部品を担当。吉田金属工業（同）が、通常は加熱が必要なマグネシウム製パイプの曲げ加工を常温で行う手法を考案するなど各社の技

岡山県内企業が技術を集めて試作した車いす

考案するなど各社の技